

事務事業名	真岡市母子寡婦福祉会支援事業				担当	健康福祉部 児童家庭課 児童家庭係	
政策名	C	思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり			電話番号	0285-83-8131	
施策名	2	子育て支援の充実			☐ 実施計画上の主要事業		
基本事業名					事業期間	☐ 単年度のみ	
法令根拠	真岡市補助金等交付規則					☒ 単年度繰返（開始年度 昭和29 年度～）	
予算科目	1.一般会計	3.民生費	2児童福祉費	3母子福祉費		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）	
事業概要	母子家庭・寡婦家庭の生活の安定と福祉の向上及び会員相互の連絡、親睦を図ることを目的に、真岡市母子寡婦福祉会が次に掲げる事業を実施する際に、市が補助する事業である。 (1) 各地区母子寡婦福祉会の連絡並びに指導 (2) 母子家庭並びに寡婦家庭の福祉の向上に関する調査及び研究 (3) 会員研修会、講演会の実施 (4) 関係諸団体との連絡提携 (5) その他、本会の目的達成のため必要な事業						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 27年度実績 真岡市母子寡婦福祉会の補助申請を審査し補助金を交付する。 28年度計画 前年同様				⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
				名称		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
				ア 補助金額		千円	96	96	96	96	96
				イ 会員数		人	110	101	81	81	81
				ウ							
				エ							
				オ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 真岡市母子寡婦福祉会				⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
				名称		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
				ア 会員数		人	110	101	81	81	81
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 市が支援し、会が事業を実施することにより、会員相互の連携が図られ、会が活性化する。				⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
				名称		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
				ア 事業の延参加人数		人	374	351	429	429	450
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 会員の生活の安定、福祉の向上を図る。				⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
				名称		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
				ア 事業に参加した延人数		人	374	351	429	429	450
				イ 生活の安定・福祉の向上が図られた世帯の割合		%	100	100	100	100	100
				ウ							
				エ							
				オ							
(2) 総事業費の推移				単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
			県支出金	千円	0	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円	0						
			一般財源	千円	96	96	96	96	96		
			事業費計（A）	千円	96	96	96	96	96		
	人件費		正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1		
			延べ業務時間	時間	4	4	4	4	4		
			人件費計（B）	千円	17	16	17	17	17		
			トータルコスト(A)+(B)	千円	113	112	113	113	113		
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等											
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？		・戦後未亡人の母子、寡婦がお互いに支えあって生活の安定と自立を図るため、「白梅会」の名で発足したもの。									
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは 5 年前と比べてどう変わったのか？		・母子・寡婦世帯は増加しているが福祉会加入会員の数が減少している。 ・若い人の加入が少ない。 ・平成21年3月23日、二宮町との合併により二宮町母子寡婦福祉会は真岡市母子寡婦福祉会に統合された。									
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？		市の支援により会が事業を実施することにより、会員相互の連携が図られ会が活性化したとの声がある。									

2. 1 次評価の部 ＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	☒ 結びついている ☐ 見直し余地がある 母子・寡婦家庭の生活の安定と福祉の向上が市の施策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	☒ 妥当である ☐ 見直し余地がある 母子・寡婦家庭の生活の安定と福祉の向上を図ることは市の施策として妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	☒ 適切である ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある 母子・寡婦を対象としているので妥当である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある 会員の親睦と福祉の増進を図る事業であり、向上の余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響がある ☐ 影響がない 福祉会の活動に支障をきたすので廃止・休止はできない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	☐ 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） ☒ 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	☐ 他の事業と統合・連携ができる ☐ 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 必要最小限の事業費で実施しており、削減の余地はない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか（アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 必要最小限の人件費で実施しており、削減の余地はない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	☒ 公正・公平である ☐ 見直し余地がある 会運営費は、受益者負担があり、公平公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☐ 見直し（ ☐ ：目的妥当性 ☐ ：有効性 ☐ ：効率性 ☐ ：公平性） ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td>／</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>／</td><td>／</td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	／	低下		／	／
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○	／																				
	低下		／	／																				
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の 2 次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td>／</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>／</td><td>／</td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	／	低下		／	／
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上																								
	維持		○	／																					
	低下		／	／																					
(2) 2 次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																									
(3) 2 次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他 2 次評価会議で指摘された事項																								